

# 「わが身切りさかれても…断固阻止」 東富士軍用道路粉碎 10.14北富士緊急集会開る



# 日刊 勤労千葉

84. 10. 18

No. 1769

### 国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

10月14日北富士の梨ヶ原、松丸尾管理小屋前で10・14北富士緊急集会が開催されました。

守り育てた赤松林を軍用道路にはさせないぞ！

伐採強行攻撃のまん中、梨ヶ原のあたり一面赤松林に囲まれた松丸尾管理小屋は、「忍草母の会」と「入会組合」の人々によつて守り続けられている。この小屋の前の会場に、北富士闘争39年間の勝利の闘いの確信に満ちあふれた忍草母の会のお母さんたちと忍草入会組合の人達、それに10・10三里塚二期決戦を圧倒的に勝利してかけつけた三里塚芝山連合空港反対同盟の人たちの参加で緊急集会にもかわらぬ熱気あふれる集会になりました。

反動・中曾根のますますエスカレートする「軍事大国化」攻撃は、自衛隊と山梨県当局をして、今、北富士と東富士の両自衛隊演習場を直結する「東富士軍用道路建設」強行にとりかからせています。これは、忍草の農民が心をこめて永い年月をかけて守り育ててきた松林や草原を軍靴と戦車のキャタピラーでふみにじり、なによりも忍草農民の生活と生命まで奪い尽す凶暴な攻撃です。戦争のためには、労働者・人民・農民を殺してもかまわないというこんな攻撃を断じて許してはなりません。

「立木に身をしばりつけてでも」  
—— 決死の闘いに起つ忍草 ——

防衛施設庁・山梨県当局とその尖兵となった、「恩し林組合」（賠償金で買収され、北富士闘争から脱落していった裏切り者で結成された御用組合）が一体となって、いよいよ赤松林の伐採を開始するという緊迫した情勢下で、集会は怒りをもつてすすめられました。

集会は、忍草母の会事務局長の天野さんの司会で始められ、渡辺入会組合長の主催者あいさつですすめられました。天野さんと渡辺さんは、各々、「私達忍草農民は、伐採されようとする赤松の本一本に身をしばりつけ、たとえわが身が切りさかれようが断固として阻止する」「無制約のゲリラ闘争の権利が私達にできた。母の会を甘くみて

はならない。私達は絶対に負けない」「闘いを放棄し、一九七四年に脱落し裏切った者がいま山梨県当局に四千万円で買収されて伐採の尖兵になっている。これが『恩し林組合』だ。絶対に許さずぶつつぶさなくてはならない」「流血の成田闘争を闘っている三里塚反対同盟の同志がかけつけてくれた。

非常に心強い。皆さんも共に闘ってほしい」とあいさつしました。



三里塚からかけつけた反対同盟北原事務局長、鈴木さん、市

東さん、それに婦人行動隊長の郡司さん、青年行動隊の北原さんが連帯のあいさつに立ち、各々、「三里塚を闘うことは、北富士を闘うことだ」「中曾根の軍事大国化攻撃をぶつぶすまで、反権力闘争を勝利するまで共に闘っていく」「一人になっても闘えば人民は必ず決起する。共に闘おう」とよびかけました。

非妥協・不屈の闘魂に学び、  
必ず中曾根を倒そう

勤労千葉からは、片岡組織教宣部長と田中青年部長を先頭に青年部十名の代表が参加し、代表して田中青年部長が「国鉄労働運動破壊攻撃と北富士―三里塚への攻撃の根は一つ、中曾根だ。必ず打倒しよう。三里塚での『脱落派』、北富士での『恩し林組合』、国鉄の『勤労革マル』等の裏切集団との闘いなくしてわれわれの勝利はない。われわれ労働者は、北富士―三里塚の皆さんの非妥協・不屈の実力闘争の精神をわがものとして、共に連帯して闘う」と決意を表明しました。このあと、各支援の代表の決意をうけ、集会を成功裡にかちとり、「恩し林組合」本部までの怒りのデモを貫徹し解散しました。